

産業デザイン
支援
漆工房 攝津

歴史ある伝統工芸だからこそ
新しいスタイルを確立したい。
後進たちの道標を目指して



きめ細やかなアドバイスを受け
大型商談会に挑戦



漆工房 攝津
代表
攝津 広紀 Settsu Hiroki
〒012-0105
湯沢市川連町大館下
山王141-3
TEL.0183-42-3514



ホームページ

蒔絵専門から企画・販売も行う職人に

800年の歴史を持つとされる、湯沢市の伝統工芸・川連漆器。鎌倉時代、刀の鞘や弓、鎧などに漆を塗ったことが始まりとされている。漆工房攝津の代表・攝津広紀さんは、商品の企画、設計から塗り、蒔絵などの装飾までを手掛ける。川連漆器は多くの伝統工芸と同じように、分業制だ。もともとは蒔絵家業だった攝津さんは、なぜ商品開発から販売までを行うようになったのか。

輪島で修業した後、平成11年に秋田に戻り、蒔絵師の三代目として家業を継いだ攝津さん。「蒔絵は漆器店・問屋から注文が来て初めて成り立つ仕事です。オーダーを待っているだけではなかなか厳しい時代になりました」と語る。素地や塗りの修行経験を活かし、自分が企画制作した漆器商品をお客様に届けることにチャレンジした。長年の慣例を打ち破るのは容易くなかったが、製作しては直接お客様と向き合った。試行錯誤を繰り返しながらの地道な活動は実を結び、今では工程全体を製作する割合が多くなっている。

伝統を受け継ぎながら、次の世代へ

今回活性化センターを活用したのは「ててて商談会」への出展に向けた準備のためだった。まずはパンフレットを一新するため、デザイナーへどのようにオーダーすればよいかのアドバイスを受けた。また同商談会は、これまで攝津さんが参加してきたBtoCの展示会とは異なり、小売店向けの商談に必要な取引条件書等を用意することなど交渉のアドバイスももらい、作成のサポートも受けた。

「ててて商談会では、すぐの契約には至りませんでした。商談は継続しています。他にも各種展示会や個展の誘いも頂きました。今回の経験を活かし、また挑戦したい」と振り返る。

これまでとは違う活動や働き方を見せながら「伝統工芸である川連漆器を生業とすることを次の世代につなげていきたい」と語る攝津さん。新たなスタイルのパイオニアとして若者の道標となるべく、これからも活動を続けていく。

▶活用事例
産業デザイン支援

産業デザイン、製品開発、マーケティング等についての専門的な助言やデザイナーとのマッチング、コーディネートを支援します。

【お問い合わせ】
知財・デザイン支援課
TEL. 018-860-5614



漆を何度も丁寧に塗り重ねることにより、漆器特有の滑らかな塗り肌となる。全ての工程は手作業だ。



センターでは、商談会の来場層に合わせた商品選定や展示什器に関する商談ツールのアドバイスを行った。



攝津さんは、川連伝統の「塗り」や「蒔絵」の他、螺鈿、琥珀、銀地といった高度な技法による表現も得意とする。